

JICA研修「下水道システム維持管理(C)」 研修員と民間企業との交流会を開催しました。

平成30年9月25日(火)および26日(水)、JICA研修に参加している海外からの研修員と下水道技術の情報発信パートナー企業との交流会を開催しました。

本交流会は、独立行政法人国際協力機構(JICA)関西センターから「下水道システム維持管理(C)」コースを受託するクリアウォーター-OSAKA株式会社と、大阪水・環境ソリューション機構(OWESA)の構成団体である大阪市建設局が主催し、OWESA事務局が協力して開催したものです。



参加各企業からのプレゼンテーション



OWESA:Osaka Water & Environment Solutions Association. 現在、OWESAの代表者は大阪市副市長が務め、事務局を一般財団法人都市技術センターにおいています。



意見交換の様子

【交流会の概要】

- 日時・場所
平成30年9月25日(火)午後(第1回) 26日(水)午前(第2回)
大阪市建設局第6共通会議室
- 研修員出身国
バングラデシュ人民共和国、エチオピア連邦民主共和国、ガイアナ共和国、マレーシア、モロッコ王国、パレスチナ、ルワンダ共和国(7か国、7名)
- 参加企業(プレゼンテーション順)
・サンユレック株式会社 ・日立造船株式会社 ・フジワラ産業株式会社
・芦森工業株式会社 ・水ing株式会社
- プログラム
・各企業技術紹介(各社30分)
・研修員との意見交換(1グループに20分)

アジア、アフリカ、南米などから来日した総勢7名の研修員は、将来の母国の下水道事業の発展を中心となって担っていく人材であり、彼/彼女たちが日本の下水道分野の優れた技術を、第一線の企業担当者から直接話を聞く機会を設けるとともに、日本企業においても研修員との意見交換を製品開発や海外での事業展開に役立てていただくことを目的に実施しました。

研修員は、自国の下水道を少しでも改善したいという熱意を持って各企業担当者によるプレゼンテーションに聞き入り、またその後、研修員を3グループに分けて行われた各企業との意見交換では名刺やEメールアドレスの交換の後、予定時間が不足するほど質問が飛び交い、今後につながる交流会となりました。

また、26日(水)午後にはOWESA事務局から研修員に対して「大阪 水・環境ソリューション機構～大阪市の水・環境技術とノウハウ～」と題した講義を行いました。

Merとは
「Mer(メール)」とはフランス語で「海」を意味する言葉。命を育んだ海と、メッセージを伝える「メール(Mail)」の音を重ねています。この冊子では、これからも水という大切で身近な存在を通して、私たちの暮らしと未来について考えていきます。

紙面に関するご意見・ご感想をお聞かせください
「Mer」では、大阪府内を中心とした下水道情報を織り交ぜながら、水そのものや水環境、都市環境、水にかかる生産活動などに関する幅広い分野の情報を掲載しております。当センターでは、この「Mer」のより一層の紙面充実を図るため、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。関心を持った記事や取り上げてほしい内容・場所・地域などをご記入ください。
応募方法 メール・FAX・ホームページにて
メール: koueki@uitech.jp FAX: 06-4963-2087

人と地球のうらおいマガジン・メール2018年10月号
発行 一般財団法人 都市技術センター
〒541-0055 大阪市中央区船場中央2丁目2番5号-206 船場センタービル5号館2階
TEL 06-4963-2056 <http://www.uitech.jp/>

清流紀行	P02
「紀三井寺」(和歌山市)	
ガイアの瞳	P04
「都市型集中豪雨の備え ～大阪市ならではの浸水対策を学ぼう」	
水人之交	P08
「美酒を育む『宮水』」(兵庫県西宮市)	
大阪府内の下水道情報	P12
センターだより	P14

清流紀行

三つの井戸をもつ紀州の寺
紀三井寺(和歌山市)



国の重要文化財指定の「楼門」。

●『名水百選』に選ばれた湧き水

早咲きの桜の名所として親しまれている紀三井寺。その正式名称は「紀三井山金剛宝寺護国院」ですが、三つの井戸水(北から吉祥水・清浄水・楊柳水)があることから「紀三井寺」という名前が親しまれてきました。

JR紀勢本線(きのくに線)・紀三井寺駅から徒歩10分ほど。土産物屋が並ぶ石畳の道をのんびり歩けば、鮮やかな朱色の「楼門」に到着します。国の重要文化財に指定されているこの門は室町時代に建立されたもの。欄間に施されたボタンやハスの花が、参詣者を迎えてくれます。門をくぐると、目の前に現れるのは長い長い石段。その昔、江戸時代の豪商・紀ノ国屋文左衛門の結婚と出世のきっかけとなった坂であることから「結縁厄除坂」と呼ばれるようになりました。「日本名水百選」に選ばれた三つ



清浄水

木々の静寂の中に流れる小さな滝は「清浄水」。

の湧き水めぐりを楽しみながら、歩みを進めましょう。

まずは石段を50段ほど登ると、右手の静かな木立の中に一つ目の三井水「清浄水」があります。岩の間から流れる小さな滝は、紀三井寺の歴史と深く関わっているそう。その昔、寺を建立した唐僧・為光上人の前に竜宮城の乙姫が現れました。彼女は上人の徳をたたえた後に、竜に乗って清浄水辺りに身

1250年来の寺名に息づく
さん せん すい
「三井水」。

霊泉をたどりながら、和歌の浦の眺めにホッとひと息。

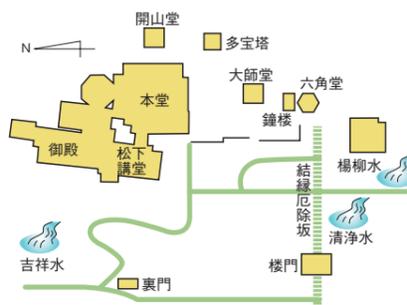
を消したと伝えられています。「罪を洗い流し、清らかな心に導いてくださる霊水」として親しまれている「清浄水」。夏の猛暑日には打ち水として参道に散水され、訪れる人々に涼を感じさせてくれます。

「紀三井寺三井水」の青いのほりを目印に、さらに小道を進めば「楊柳水」に到着。静かにたたずむ井戸のそばには蛇口があり、自由に水をくむことができます



楊柳水

病から救ってくれるありがたい水として親しまれてきた「楊柳水」。遠方から水をくみに訪れる人も多い。



吉祥水

裏門の北側に3番目の井戸水が。地元の人々の願いによって再建され、今なお守られている。

(飲用には念のため煮沸を)。霊水としてあがめられてきた三井水は炭酸水素カルシウムや硝酸イオンが含まれたミネラル豊富な水。生け花や書道、茶の湯にと遠方から足を運ぶ人も多く、醸造家がしょうゆやみそを造る際にこの水を仕込みに使っていたという話も残されています。

計231段の急な石段を登り切れば、いよいよ本堂が見えてきます。本堂前には開花宣言の目安となる標準木(和歌



●交通アクセス

電車)JR和歌山駅から紀勢本線(きのくに線)で南へ2駅目。紀三井寺駅下車、徒歩約10分
車)阪和自動車道・和歌山ICをおりて、宮街道を和歌山市内方面へ。「田中町」の交差点を左折し、国体道路を約5km進む



木造立像では日本最大の観音像。



お守りや桜の香りの線香などをあれこれ選ぶのも楽しい。

山地方気象台指定)が。約500本の桜が咲き誇る春の境内もまた、訪れる人々を魅了します。眼下に広がる和歌浦湾の眺めに癒やされながら、ひと呼吸。3番目の「吉祥水」へは、本堂脇の山道を下り、裏門を目指しましょう。門を出たら右へ、住宅街を200メートルほど歩くと青いのほりが見えてきます。かつては土砂崩壊などの被害を受けて荒廃していた「吉祥水」。近年、地元の方々を中心に結成された保存会によって再建されました。「吉祥天女の体内よりたまう霊泉」を後世へと伝えるべく、今なお地道な努力が続けられています。

西国第2番の札所としても親しまれる紀三井寺。その昔、松尾芭蕉が一句詠んだことも有名で、坂道の途中に建つ銅像と句碑も趣たっぷりです。

立ち寄り“海”SPOT 異国情緒たっぷりの「和歌山マリーナシティ」

参詣後は、少し足をのびして「和歌山マリーナシティ」へ。地中海の港町を思わせる町並みと、海からの心地よい風に癒やされます。紀三井寺から車で約10分とアクセス便利。スペインの古城とイタリアの港町、フランスの伝統的な街並みをモチーフにしたテーマパーク「ポルトヨーロッパ」をはじめ、マグロの解体ショーが人気の「黒潮市場」、和歌浦の海が一望できる天然温泉も充実。海の幸のお買い物や釣りを楽しんだり、マリーナに浮かぶヨットを眺めながらリゾート気分を味わうのもおすすめです。

美しい海辺の風景に癒やされるひととき。

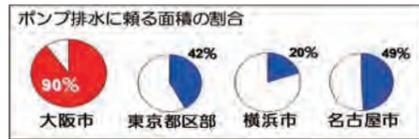
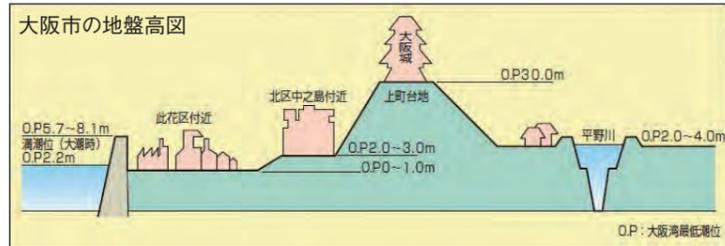
問い合わせ)和歌山マリーナシティインフォメーション (TEL0570-064-358)

もう一度暮らしを見つめよう

ガアの瞳

「雨に弱い」大阪市の地形

現在の大阪市域は、大部分が淀川や大和川などから土砂が運ばれてできたもの。もともと海であったところにできた、低くて平らな土地という特徴があります。上町台地などの一部エリアを除いて、市域の約90%がポンプ排水に頼らなければならない現状。まさに「雨に弱い」地形であることから、重点事業として「浸水対策」に取り組んできました。



PROJECT.1 “抜本的な”浸水対策

昭和50年代には、ほぼ全市域に整備された大阪市の下水道。市街化が進んで道路は舗装され、雨の大半は一時的に下水道に集められるようになりました。その結果、浸水のリスクが高まり、浸水対策の一つとして下水道の役割がさらに重要となりました。

大阪の「雨水対策整備率」*は平成29年度末で約80.1%と全国平均を上回るものの、集中豪雨時には、今なお浸水が発生しています。

その対策として既存の施設を活用しながら、不足する能力を補う施設(下水道幹線やポンプ場)を整備しています。安全で快適なまちを目指し、昭和56年度から推進してきたのが「抜本的な浸水対策」です。

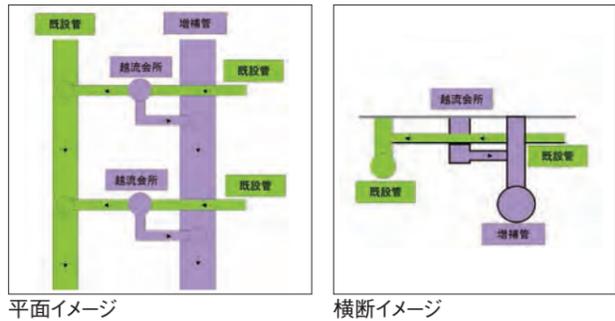
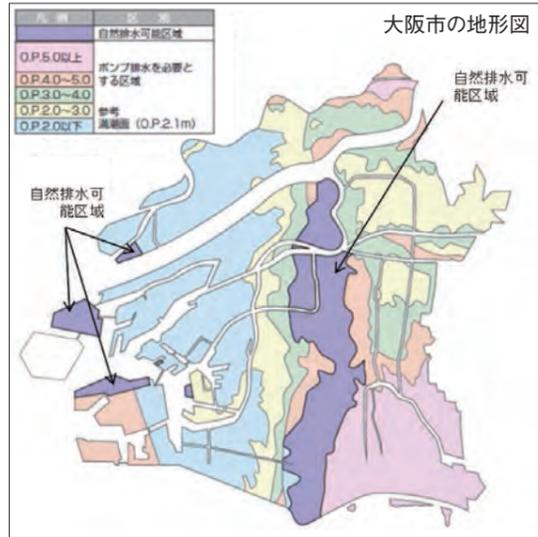
抜本的な浸水対策は施設規模が大きく、多大な費用と長期間に及ぶ工事が必要です。そのため、今なお整備途上の状況にあります。

*おおむね10年に1回の大雨(1時間あたり60mm)でも浸水しないことを目標に、整備できた区域の比率

下水道幹線とは、まちに降った雨水を集めて流す、いわば大きなパイプのこと。この幹線により運ばれてきた雨水を川や海に排出するための施設がポンプ場です。

都市型集中豪雨の備え

7月初旬に西日本を襲った、記録的な豪雨。長く激しく降り続いた雨は土砂崩れや川の増水を引き起こしました。記憶に新しい台風21号もまた、人々に甚大な被害を与えました。「今、同様の強い雨が降ったら?」と考えがちですが、豪雨への備えは地形によって大きく異なります。土砂がたい積してできた低地である大阪平野。その特徴に沿った大阪市の浸水対策と、下水道が担う重要な役割について考えてみましょう。



①なにわ大放水路 ~平野・住之江幹線~

平野区から西へ長居公園通、住之江通をって住之江抽水所まで伸びる、地下30mの大きな下水道幹線。昭和59年から始まった工事は16年に及び、平成12年に完成しました。
【DATA】最大内径:6.5m 総延長:12.2km 排水能力:73m³/秒

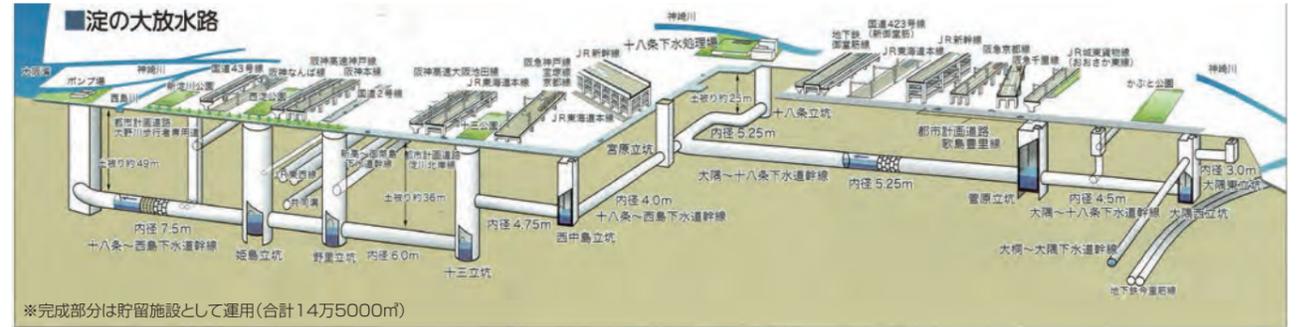
②住之江抽水所

①のなにわ大放水路によって集められた雨水を住吉川に排出するポンプ場。毎秒73m³を排出できる、大阪市内でも大きなポンプ場です。



~大阪市ならではの浸水対策を学ぼう

③淀の大放水路 【DATA】最大内径:7.5m 総延長:22.5km 排水能力:105m³/秒



集中豪雨・ゲリラ豪雨について考えよう

近年の大阪市内の浸水被害

	H23.8.27	H24.8.13~14	H24.8.18	H25.8.25
浸水戸数(床上)	1,788 (96)	815 (87)	789 (22)	1,320 (41)
雨量	1時間 強度 77.5mm (気象台)	83mm (井高野抽水所)	94mm (中之島抽水所)	67.5mm (徳第2抽水所)
10分間 強度	26.3mm (井高野抽水所)	21.5mm (国次抽水所)	32mm (塚本抽水所)	27.5mm (気象台)

※このようなゲリラ豪雨による浸水被害は、全国的にも大きな課題となっています

近年「集中豪雨」「局地的大雨(ゲリラ豪雨)」と呼ばれる大雨の被害が目につくようになりました。大阪市内各所でも、平成23年から3年連続して集中豪雨による浸水被害が発生。これを受け「浸水被害を軽減するためにはそれぞれの地域に沿ったきめ細やかな対策が必要」という新たな認識が生まれました。

コラム 「集中豪雨やゲリラ豪雨はなぜ発生するのでしょうか…?」

「集中豪雨」とは、線状の降水帯が数時間停滞し、大雨が集中して降るもの。降水帯は長さ50~300km×幅20~50kmに及び、梅雨の時期や9月に見られます。これに対して「ゲリラ豪雨」とは局地的大雨のこと。散在する降水域で、20~30km四方の広さに点在し、5月や夏に目立ちます(どちらも雨量に関しては明確な基準はなし)。

豪雨の原因は、ズバリ「積乱雲」です。水蒸気の凝結によってできた雲粒が雨粒の大きさにになると地上に降り注ぎ、大気的不安定さを解消するという仕組みです。ただ、積乱雲の寿命は約1時間、雨を降らせる時間はその半分程度。雲粒が雨粒に成長すると、雨粒が上空から落ちるのに時間がかかるためです。ところが、前線付近で冷たい空気の上に暖かい空気が乗り上げたり、山沿いの平地で風が山のほうに吹き上げたりするような場合には、強い上昇気流が生じて、寿命を迎えた積乱雲の近くで別の積乱雲が次々と誕生。それらが線状降水帯を形作って、集中豪雨を降らせるのです。

これらの雨の怖いところは「近くで大して降っていないので、つい安心してしまう」という点。居住地近辺が豪雨でなくても、河川に近い場所では必ずしも安全とは限りません。

被害を避けるために

1 自分が住んでいる地域の特色について、あらためて確認を!

くぼ地か低地か。過去に氾濫はあったのかなど。かつては過去の事例をもとに、水害を避けて住宅を建ててきました。新興住宅地では当てはまらない場合も多いため、十分留意する必要があります。

2 気象情報をチェック!

まずは天気予報で概要を把握。豪雨になりそうな場合は、より詳細な情報にアクセスを。

~check!<降水ナウキャスト>~
気象庁のサイト上では、1時間先までの降水域の移動状況を10分単位で地図上に表示しています。「このタイミングで家を出れば傘を持たなくてOK!」といった具合に、ぜひ活用してみてください。

高解像度降水ナウキャスト→
<https://www.jma.go.jp/jp/highresorad/>

TOPICS.1

私たちにできること①…雨水をためてみませんか?

“雨どい”から雨水を取り込んで貯留し、植木の水やりや打ち水などの二次利用ができる雨水貯留タンク。大阪市では、浸水に対する被害軽減策の一つとして「雨水貯留タンク普及促進助成制度」を設けています。購入費用の一部を助成することで、市内におけるタンクの普及促進を図ります。

【問い合わせ先】建設局下水道河川部施設管理課「許認可申請等・排水協議 窓口」(分室) TEL06-6615-6260



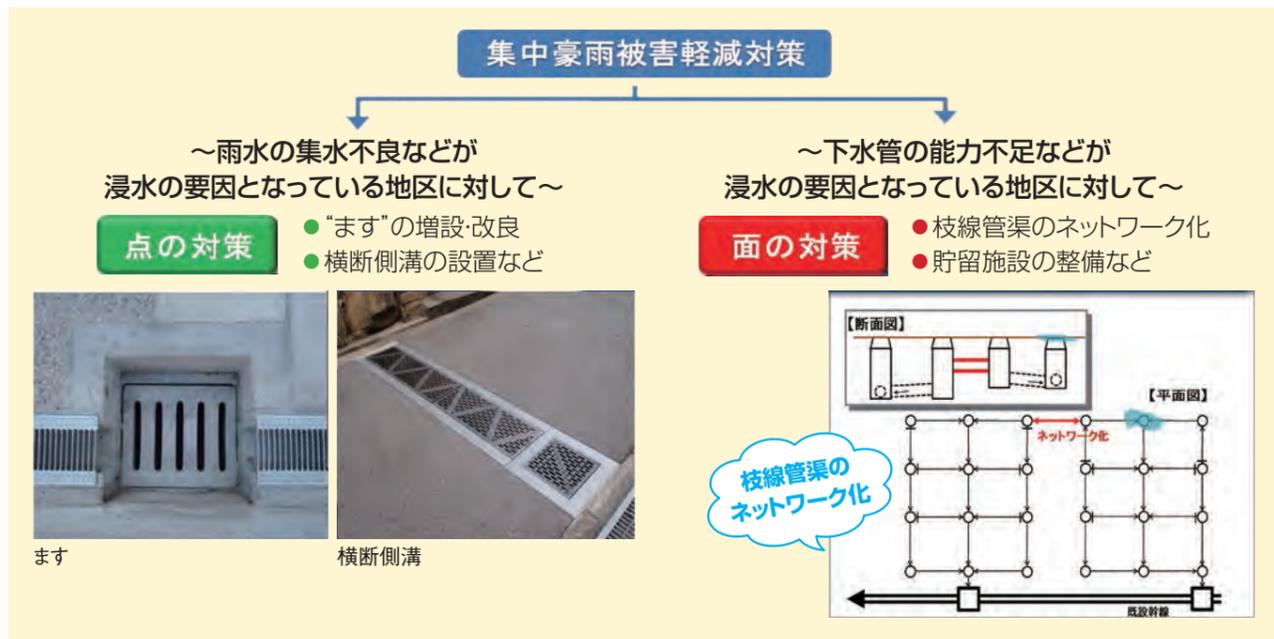
PROJECT.2 “集中豪雨被害軽減対策”

●詳細な現地調査の積み重ね

近年の記録的な集中豪雨を受け、実際に浸水被害を受けた地区に足を運び、きめ細やかな現地調査や原因究明を実施してきた大阪市。その結果、局地的に雨水が集中すると、地形に起因する排水の偏り、ますの不足や下水管の老朽化など、さまざまな要因による「従来の対策では対応が難しい事象」が明らかになりました。

これまでの抜本的な浸水対策（1時間60mmの降雨を想定）を補完する目的で、新たに立ち上げられた「集中豪雨被害軽減対策」。地形等の地域特性による浸水被害や道路冠水に対して、道路事業と力を合わせて比較的短期間で効果が得られる取り組みを展開しています。

●「点」の対策と「面」の対策の両方から



大阪市の浸水対策の「これまで」と「これから」

～浸水対策の窓口、大阪市建設局 下水道河川部にお話を伺いました～

Q. 大阪市は抜本対策と集中豪雨被害軽減対策といった“ハード面”での浸水対策をしているとのこと。他にはどんな取り組みをしておられますか？

A. 降雨レーダーの整備による情報発信や水害ハザードマップの提供など、いわゆる“ソフト面”での対策ですね。あとは、自助や共助といったところでしょうか。

Q. 具体的には？

A. “ます”にゴミを捨てない、大雨の時はできるだけ洗濯を控えるなど。小さなことですが、積み重ねていくことが一つの対策になると感じています。

Q. 市民の皆さんに土のう（土が入った袋）の貸し出しも行っているとお聞きしました。

A. 豪雨に備えて土のうを無料で配布しています。お住まいの地域の特色をよく理解されていたり、毎回早めに依頼のお電話をいただいたりと、危機管理をされていることは私たちにとって励みになりますね。土のうは取りに来ていただいてもOKですし、こちらからもお届けしています。もし必要であればお近くの管路管理セ

ンター（※市内に八つあり／管路管理センター業務案内<http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000372140.html>）に問い合わせしてみてください。

Q. これからの浸水対策はハードとソフト、日々の小さな心がけをバランスよく組み合わせていくイメージでしょうか？

A. はい、まさにその通りです。大がかりな下水道幹線などを新設するにはどうしても費用がかかってしまいます。限られた財政の中でそういった抜本対策だけでは難しい。既存の施設や空間を上手に生かしながら、きめ細やかな軽減対策で補っていくこと。ベストな浸水対策につ

いての議論は尽きませんが、既存ストックを最大限に利用することが大事だと切に思います。

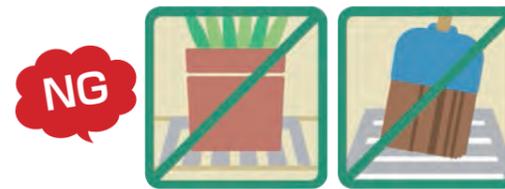
…ありがとうございました…
大阪市建設局 下水道河川部
調整課・担当係長 豊川 巖さん



PROJECT.3 今日からできる浸水対策

～大雨に備えて、できることから始めてみませんか～

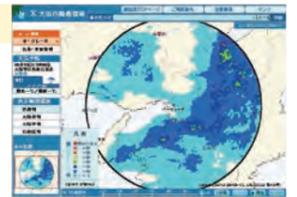
1 “まず”にモノを置かない&ゴミを捨てない
雨水の下水道への入り口である“まず”を植木鉢などでふさいでいませんか？
ますや排水溝にゴミや砂、落ち葉なども掃き込まないようにしましょう。



2 大量の水を流さない
大雨の時にはなるべく「洗濯をしない」「お風呂の水を流さない」などを心がけて。
大量の水が下水道へ流れ込まないように気を付けましょう。

3 降雨情報をこまめにcheck
港区弁天町のベイタワー屋上に大阪市独自の降雨レーダーを設置。1分ごとに情報を更新しています。

「大阪市降雨情報」
PC・スマートフォン⇒
<http://www.ame.city.osaka.lg.jp/pweb/>
携帯電話⇒
<http://www.ame.city.osaka.lg.jp/mweb/>



4 水害ハザードマップ（防災マップ）を活用
大雨が降った場合の浸水の予想や避難情報を事前に確認しておきましょう。

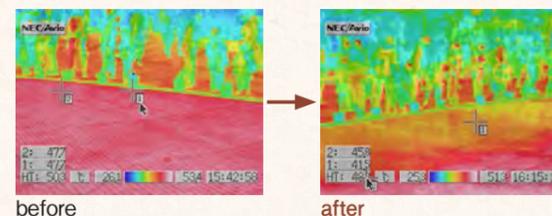


※危機管理室（大阪市役所5F）および各区役所に置いてあります

TOPICS.2 私たちにできること② 大阪打ち水大作戦

豪雨の一因とも言われている「ヒートアイランド現象」。道路や庭に水をまいて涼を得る「打ち水」は昔からの日本人の知恵であり、身近な対策です。大阪市では、平成17年度から市民・事業者の皆さんとの協働で「打ち水大作戦」（7～9月）を実施。バケツやひしゃく等の貸し出しも行い、打ち水の普及拡大に取り組んでいます。

サーモグラフィの数値を見ると路面温度が2～6℃ダウン！



※梅田ゆかた祭2016「梅田打ち水大作戦」で計測したものです。

★report!★ 福島区打ち水大作戦

福島区でも、区民や企業・団体に広く呼びかけ、8月（1の付く日）に区内全域で打ち水を実施しました。ヒートアイランド現象の緩和や環境に対する意識の向上を図ると共に、地域での新たなコミュニケーションづくりの一環として始まったこの活動。13回目を迎えた今年の8月1日には、阪神野田駅前広場で「スタートイベント」の打ち水を実施。当日は100人を超える皆さんが足を運び、地元の女子学生も涼しげなゆかた姿で水をまきました。



TOPICS.3 ちょこっとPR GKP(下水道広報プラットフォーム)

まちに降った雨水を「集めて」「流す」重要な役割を持つ下水道。その情報共有や広報活動を担う目的で設立されたのが下水道広報プラットフォーム「GKP」です。「これからの下水道をみんなで考えていく全国ネットワークの構築」をキーワードに、幅広い活動を展開しています。

★report!★ マンホールカード

世界に誇れる文化物である、日本のマンホールぶた。GKPでは下水道への理解・関心を深めてほしいという願いを込めて、全国の地方公共団体とタッグを組んで「マンホールカード」を発行しています。「集めて楽しい」コレクションカードは、下水道担当課や観光案内所などで無料配布中。ぜひ、GKPのサイトをチェックしてみてくださいね。

コレクターも
多いマンホール
カード



GKP(下水道広報プラットフォーム)⇒
<http://www.gk-p.jp/>

水交

すいじんの
まじわり

自然が醸し出す、
奇跡の酒造水

美酒を育む「宮水」
(兵庫県西宮市)



日本有数の酒どころとして知られる西宮。その酒造りを語るうえで「宮水」は欠かせない存在です。日本名水百選にも選ばれた貴重な天然資源。人々の努力によってその水質は守られ、今も変わらずキレの良い辛口の美酒を生み出しています。

「灘の生一本」でその名をさせた「灘五郷」

灘五郷とは、西宮市と神戸市の沿岸にある五つの地域のこと。西から順に神戸市の西郷、御影郷、魚崎郷、そして西宮市の西宮郷と今津郷の順に構成され、全国のおよそ3割の酒をここから出荷しています。灘地域は六甲山地からの川が多く、精米するための水車が使えらる地形であったこと、海沿いで樽廻船を利用するのに便利であったことが灘五郷の発展をもたらしました。水は宮水、米は山田錦、そして六甲おろしの吹くおだやかな気候と丹波杜氏の技術。これらの好条件が酒の主産地へと後押ししました。



170余年にわたり 銘酒を生み出してきた歴史

室町時代	まだ宮水は発見されていなかったものの、西宮の酒はこの時代には「西宮の旨酒」として知られていました。 井戸から宮水をくみ上げる「はねつるべ」/酒ミュージアム	
1840	宮水の発見 酒道家・山邑太左衛門(やまむらたざえもん)が、西宮の酒の秘密は「仕込み水」にあることを発見。当時は「西宮の水」と呼ばれていたものが、やがて「宮水」になったといわれています。この発見により酒造業者が競って宮水を求めたことで、宮水を守る「水屋」という西宮独自の商いも生まれました。 唯一残されている青銅製の運搬車(※通常は木製)/白鷹水苑	
1924	宮水保存調査会 発足 ※当時は「宮水保護調査会」として活動を展開	
1985	「名水百選」に選ばれる	
2017	「宮水保全条例」を制定	
2018	4月から運用開始	

★ 三つの伏流水がブレンドされた水

銘酒誕生に大きな影響を与えることになったのが「宮水」の発見でした。宮水とは、西宮神社の南東側一帯から湧き出す地下水。おおむね地下2～5メートルの浅い地層を流れる硬水です。この宮水地帯には三つの伏流水が流れています。かつて海であった地域を流れる「法安寺伏流」と「札場筋(ふだばすじ)伏流」は、酒の発酵を助けるカリウム、リンなどを豊富に含みます。一方、夙川を起源とする「戎伏流」は酸素を多く含み、水中の鉄分を酸化鉄として沈殿させて除去します。これらの伏流水が合流することで、ミネラルが豊富で鉄分が少ない、酒造りに適した「宮水」が生まれるのです。

🌀 震災を乗り越えて

1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災。マグニチュード7.3の激しい揺れは西宮にも甚大な被害を与えました。宮水への影響も非常に心配されましたが、その水量・水質は奇跡的に守られました。震災直後は生活用水としての提供やお風呂の開放を実施。貴重なライフラインとして地域住民の暮らしを支えました。



普段は立ち入ることのできない宮水庭園も貴重な給水の場として開放された

🌀 「守りたい」…開発と共存してきた宮水

★ 結成から90年! 歴史ある調査会

灘五郷酒造組合により設置された「宮水保存調査会」。貴重な井戸水を定期的に調査しながら、宮水にかかわる地下水の水位・水質の分析などを行っています。90余年にわたる調査会の活動によって守られてきた宮水は、学術的に貴重なものとして、日本の地下水研究にも役立っています。

★ 宮水保全条例

西宮の天然資源であるこの水を、後世へと伝えるために。2017年12月に制定された『宮水保全条例』は「開発事業者が宮水の保全対象区域内でマンション建設など一定規模以上の工事を進める際、灘五郷酒造組合との事前協議を「義務」とする」もの。2018年4月から運用開始となりました。

👑 宮水×PERSON!① 西宮市都市ブランド発信課

西宮市はこれまでも、市内のマンション等の建設の際には、宮水への影響に関して灘五郷酒造組合との協議をお願いしてきました。近年さらに都市開発が進む中で、宮水の存在を周知するために条例化を行いました。開発を厳しく制限することが目的ではなく、宮水について広く知っていただき、保全について理解を得ることを趣旨としています。都市ブランド発信課では、条例に関する窓口としての業務と共に、酒どころ・西宮ならではの多彩なイベントを通してまちの魅力を発信しています。



西宮市観光キャラクター
みやたん
(無)第2018074号

ちょこっとPR!

👑 「パ酒ポート 灘五郷2018-2019」

「酒」×「地域の食」×「ツーリズム」をコラボさせた大人のスタンプラリーBOOK。ホロ酔い気分でも酒蔵めぐりを楽しみながら、さまざまな特典が受けられます。



👑 宮水×PERSON!② BAR THE TIME: マスター 宇座忠男さん

銘酒「白鷹」の純米酒をベースにしたすっきりとした味わいの「宮モヒート」。西宮にちなんだオリジナルカクテルが飲めるバーが苦楽園にあります。バーテンダー歴50年以上の宇座忠男さんが1995年から営む「BAR THE TIME」。宮モヒートが誕生したのは、西宮市と地元の企業・団体が企画するまち歩きイベントがきっかけでした。

西宮らしいカクテルをとの依頼、頭に浮かんだ地酒は「しっかりと味わいで、他のお酒で割っても香りと味が変わらない」白鷹だったそう。試行錯誤を経て誕生した「宮モヒート」はミントの香りがすがすがしく、さっぱりとした味わい。日本酒の新しい楽しみ方ができる一杯です。「地酒を使ったカクテルで地元へ貢献できたら、もっともっと日本酒の魅力を上げていきたいですね」と宇座さん。これから誕生する、新たな地酒カクテルもまた、楽しみです。



▶白鷹ベースのショートカクテル「ホワイトホーク」。



▲純米吟醸酒を同量のジンジャービアで割ることでアルコール度数が和らぎ、すっきりと飲みやすい「宮モヒート」。

日本バーテンダー協会の重鎮でもある宇座マスター!

BAR THE TIME

バーザタイム
アクセス: 阪急「苦楽園口」下車すぐ

営業時間: 18時～24時
定休日: 月・火曜
TEL: 0798-70-1623

酒蔵通り、ホロ酔い散歩

宮水ゆかりの地をめぐる旅

商売繁盛の神様「えべっさん」で親まれる、えびす宮の総本社「西宮神社」と、西宮郷と今津郷を結ぶ「酒蔵通り」。
名水のルーツをたどりながら、のんびり歩いてみませんか？



宮水×PERSON!③

ボランティアガイド：坂本昇さん

ボランティア団体「ツーリズム西宮楽しく探見隊」のスタッフとして西宮各所のガイドを務める。酒蔵地帯を案内するガイドツアーには遠方から足を運ぶファンも多い。

▶「日本酒の世界は実に奥深い。まだまだ学びたいことがいっぱいです」と坂本さん。



Pick up!

白鹿記念酒造博物館

お酒に関する文献や美術工芸品を展示した「記念館」と昔の酒造りの流れがひと目でわかる「酒蔵館」の2館からなる、見どころたっぷりの酒ミュージアム。



▲酒蔵館はこちらから。



◀▲当時の息遣いが感じられる展示の数々。

TEL:0798-33-0008(休 火曜) ※入館有料

白鷹緑水苑

蔵元である辰馬家の住宅イメージを再現。趣のある蔵BARやテイastingバーで気軽に日本酒が楽しめる。



▲札場筋沿いでひときわ目を引く外観。



◀ここでしか味わえない蔵出しの酒が揃う。

TEL:0798-39-0235(休 第1・3水曜) ※蔵BARは土日祝のみ営業

「えべっさん」と宮水



福の神、えびすさまの総本社として全国から崇敬を集める西宮神社。正月明けの「十日戎」は、3日間で100万人を超える人々が商売繁盛を願って足を運びます。10日早朝に行われる「開門神事福男選び」は一番福を目指し、正門から本堂までの230mを全力疾走で競う十日戎の風物詩です。



「宮水まつり」と「えべっさんの酒醸造祈願祭」(10月第1土曜)

宮水発祥の地として祭られる記念碑前で、毎秋開催される「宮水まつり」。酒造りを支える宮水への感謝と、灘五郷のひとつである西宮郷のお酒をもっと知ってほしいという願いを込めて、平成元年にスタートしました。



まずは、みこ姿の宮水娘が井戸から宮水角樽にくみ出し、ご神前にお供えます。えびすさまにふんした人、宮水娘、時代装束を身につけた各酒造会社の社員ら約80名が行列を整え、記念碑前を出発。ゆっくりと市内を巡行した後、西宮神社へと向かいます。

続いて、午前11時半頃からは本殿で「えべっさんの酒醸造祈願祭」が行われます。宮水の入った角樽をお供えし、秋から始まる新酒造りの無事と出来栄を祈願します。

「西宮酒ぐらルネサンスと食フェア」(10月第1土・日曜)



▲拝殿前での一斉乾杯からスタート

「銘酒のまちにしのみや」を代表するイベント「西宮酒ぐらルネサンスと食フェア」。メイン会場の西宮神社には、西宮のお酒と食、伝統文化をテーマにした約50店のブースが集います。西宮と神戸の蔵元の日本酒を手軽なプラカップで1杯100円から楽しめるのも、日本酒好きにはうれしいイベント。近隣の西宮中央商店街や酒蔵通りなどのサテライト会場でも多彩なイベントが開催され、終日にぎわう2日間です。



▲商店街などを練り歩く「新酒番船パレード」

宮水×PERSON!④

関学・日本酒振興プロジェクト

西宮の銘酒について研究している関西学院大学のゼミ。西宮酒ぐらルネサンスと食フェアでは、バー・ザ・タイムの宇座マスター直伝の地酒カクテル「宮モヒート」を販売。2017年は2日間で約2,000杯と、イベントを大いに盛り上げました。

宮水×PERSON!番外編

「福ちゃん」

西宮中央商店街の八百屋「マンダリ」の奥で道行く人を見守っている「福ちゃん」。イベント開催時には大きな福ちゃんの着ぐるみが現れることも。



日本酒を楽しむ! 秋～冬のイベント

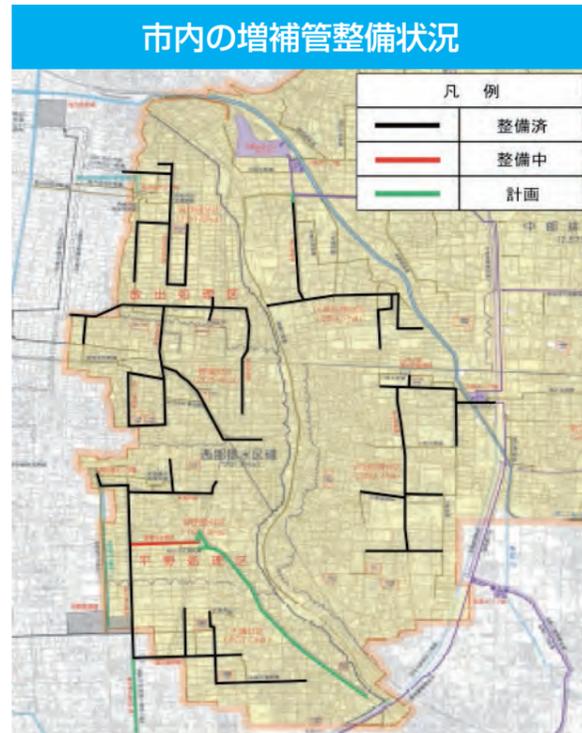
- まちなかにしのみや / 2018年10月～2019年3月 @市内各エリア
西宮ならではの「まちあるき」と「まちなか体験」をテーマにした多彩なプログラム。問い合わせ)西宮観光協会 (TEL0798-35-3321)
- 西宮蔵開(くらびらき) / 2019年2～3月 @市内各酒蔵
問い合わせ)西宮日本酒振興連絡会(西宮観光協会内) (TEL0798-35-3321)

雨水増補管整備事業(東大阪市)

東大阪市の公共下水道は、昭和24年より事業着手し、大阪市と隣接する旧布施市から整備を進めてきました。しかし、高度経済成長期以降、都市化の進展に伴い雨水流出量が増加した結果、浸水被害が多発。昭和57年豪雨では約1万2千戸の浸水被害が発生し、これを受け度重なる浸水地区の被害軽減を図るため、八戸の里雨水貯留施設(8,000m³)の整備を行いました。

さらに、平成4年2月には「雨水レベルアップ計画」を策定し、増補管整備事業に取り組んでいます。これは下水道整備が早期に進んでいた第二寝屋川以西において、計画対象降雨を見直し、既設下水管の流下能力を補う新たな下水管を整備するものです。

増補管整備事業は総延長約27km、内径1,000～4,750mmに亘るもので、全体計画の約90%が整備済みとなっており、現在は東大阪市茨川町から柏田西地区において新岸田堂幹線の整備を進めています。また、将来的には寝屋川南部地下河川への接続も控えており、市民の安心安全な生活を支えるため、早期完成を目指し事業を進めています。



新岸田堂幹線の整備状況。左は作業基地、右は増補管の内部

治水施設の効果

今年7月、台風7号や梅雨前線の影響により、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な豪雨となりました。この豪雨により、多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、人的被害に加え、全壊を含む住宅被害など大きな被害が出ました。

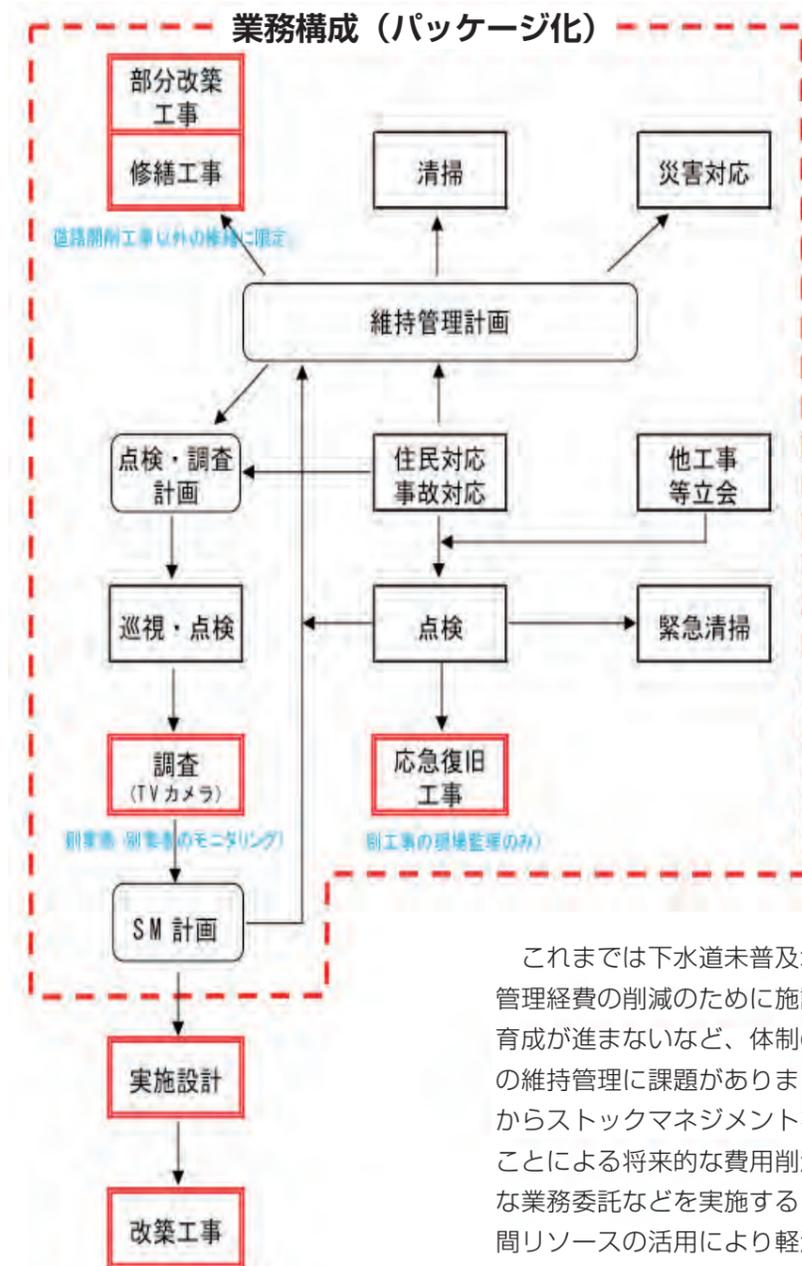
本市でも7月4日から7日にかけて連続雨量約250mmを記録し、河川水位の上昇による大規模な災害の発生が危惧されました。しかしながら、前述の雨水増補管をはじめ、寝屋川流域総合治水対策の一環として大阪府により整備された地下河川や遊水池等の治水施設が複合的に機能し、河川水位の上昇を抑え、浸水被害を回避することができました。

下水道管路施設の包括的民間委託(河内長野市)

河内長野市では、平成26年度から一部地域において管路施設の包括的民間委託を実施しています。第1期が平成27年度までの2年間、第2期が平成32年度までとなっています。

(一財)都市技術センターを含む5社の共同企業体が受託し、現在業務を実施しています。

業務内容は、従来から直営で行ってきた住民対応・事故対応、他工事立会、委託で行ってきた清掃や修繕、部分的改築工事、長寿命化対策事業として実施する管路調査やストックマネジメント計画策定、今後の維持管理の方針をまとめた維持管理計画の策定など、維持管理からストックマネジメント計画策定までの業務をパッケージ化しました。



作業車両内部機材



公共樹洗浄状況

これまでは下水道未普及地域の整備事業に注力し、また、維持管理経費の削減のために施設調査の実施や業務に精通した職員の育成が進まないなど、体制の脆弱化があり、老朽化のすすむ管路の維持管理に課題がありました。また維持管理を『発生対応型』からストックマネジメントを踏まえた『予防保全型』へ転換することによる将来的な費用削減を目標とし、職員の追加配置や新たな業務委託などを実施することによる急激な費用負担の増加を民間リソースの活用により軽減するとともに維持管理マネジメントの補完を目的とした業務委託の一元化が可能となる包括的民間委託を実施しました。

今後、業務の履行監視について試行検討をすすめ、評価手法について研究を進めていく予定です。

現場で考えた
～広域化・外部委託すれば明
センターだより グランフロント大阪ナレッジキャピタル (水道・下水道)

公営企業セミナー 上下水道事業の課題と解決への方策 - 如何に変えていくか -

公営企業セミナーについて

一般財団法人都市技術センターでは、下水道事業経営においてさまざまな課題を抱える自治体のお客さまに、豊富な行政経験を有する職員がお客さまの視点に立ち課題の解決をサポートさせていただいており、経営改革の観点において公営企業法適用(適用後)支援、経営戦略策定支援、使用料改正支援、広域化支援、官民連携手法検討支援業務を行っています。

これらに関連のある事柄について、当財団の公益目的事業の一つとして、昨年に引き続き公営企業セミナーを開催しました。



背景(下水道事業を取り巻く環境の変化)

下水道事業は使用料収入をもって経営を行う独立採算制を基本原則としていますが、施設等の老朽化に伴う更新需要の増大、耐震化はじめ災害対応の強化、大量退職等に伴う職員数の減少などの問題を抱え、人口減少、節水意識の向上等に伴う料金収入の減少もあり、取り巻く経営環境は厳しさを増しています。

一般会計についても、今後、社会保障関係経費などの増大が見込まれる厳しい財政状況にあり、また、国においても財政状況が厳しく、下水道事業のハード整備を促進してきた公共事業費は大幅に縮減しています。

このため、これまでも増して経営環境の変化に適切に対応し、経営改革に取り組むことが求められ、総務省は、平成25年度まで、経営健全化の観点から抜本改革を推進するとともに、経営状況の適切な把握・経営管理の観点から地方公営企業会計基準の見直しを推進してきました。

平成26年度以降においても、経営健全化等に不断に取り組むことが必要とされ、総務大臣通知のロードマップでは、計画的な経営基盤の強化と財政マネジメントの向上等をより的確に行うため、平成27年度から平成31年度までを公営企業会計適用の「集中取組期間」として、下水道事業を「重点事業」と位置付け、人口3万人以上の市区町村等の公共下水道、流域下水道事業について移行が必要とし、人口3万人未満の市町村についてもできる限り移行が必要としています。

また、経営改革の点では、下水道事業が、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」の策定が要請され、平成32年度までに策定率100%を目指す旨と通知されています。

さらに、広域化・共同化の推進を含め、持続的経営を確保する方策等を検討し、具体的な方針を年内に策定するとされています。

セミナーの開催

今回のセミナーでは、下水道事業を取り巻く環境の変化、多様な制度支援、提言が行われている中、事業体に必要なのは、「如何にインフラ事業としての諸課題を解決するか」という課題への現実的な事例や示唆かと考え、経験豊かな講師から公営企業改革の事例や課題への実践的解決策について講義していただき、社会に必要な上下水道の将来を考えるためのプログラムとしました。

当日は、関西の上下水道事業関係者約200人が出席する中、総務省地方公営企業等経営アドバイザー・元三春町企業局長の遠藤誠作氏は「現場から考えた上下水道の未来～広域化・外部委託す



れば明るくなるか?」を演題に、経験を踏まえ、経営改革の実情などを紹介。中小自治体は公営企業の経営能力が求められているとし、老朽化対策など先送りは、費用の増大を招くとされ、また公営企業の今後として、広域化、あるいは県やブロック単位の地域水道会社化に活路があるとされました。

次に望月美穂・日本経済研究所調査本部副本部長が「上下水道事業での官民連携の課題と解決のヒント」を演題に、日本の上下水道事業におけるPPP/PFIの現状、その中でコンセッションの動向などを説明し、「さまざまな手法の中で適材適所が重要」とされ、パリ市水道事業の再公営化について「官民の2社択一ではなく、肝心なのはガバナンスの問題だ」と述べられました。



最後に

公営企業セミナーは、経営課題の解決策にヒントを得る講演であり、参加いただいたそれぞれの事業体において内部議論の切っ掛けになれば幸いと考えており、今後も継続して開催していく予定です。

日時:平成30年6月14日(木) 午後1時30分～4時30分(受付開始 午後1時)
場所:グランフロント大阪ナレッジキャピタルC棟8階(大阪駅/梅田駅から徒歩3分)
〒530-0011大阪府大阪市北区大深町3-1

ご対象:地方自治体で公営企業の経営に携わる方(参加費:無料、定員:180名)

講演:(1)遠藤 誠作 氏
北海道大学 公共政策大学院 公共政策学研究センター研究員
元 福島県三春町 企業局長、同公営企業管理者職務代理者
演題 「現場から考えた上下水道の未来
～広域化・外部委託すれば明るくなるのか?」

(2)望月 美穂 氏
株式会社 日本経済研究所 調査本部兼社会インフラ本部 副本部長
演題 「上下水道事業での官民連携の課題と解決のヒント」



Mer Vol.25の作成に取材協力・写真提供をいただき、ありがとうございました。

- ▶清流紀行……………■紀三井寺 ■和歌山市観光協会
- ▶ガイアの瞳……………■大阪市建設局下水道河川部・環境局環境施策部・福島区役所
- ▶水人之交……………■西宮市産業文化局産業部都市ブランド発信課 ■西宮観光協会 ■白鹿記念酒造博物館 ■白鹿緑水苑 ■灘五郷酒造組合 ■西宮酒造家十日会
- ツリズム西宮楽らく探見隊 ■西宮神社 ■西宮酒くらルネサンスと食フェア実行委員会 ■BAR THE TIME
- ▶府内の下水道情報……………■東大阪市下水道部下水道計画総務室 ■河内長野市上下水道部下水道課